

大韓民国歴史博物館

韓国の首都ソウルの中心にある「大韓民国歴史博物館」を訪れた。案内してくれたのは、創設からこの博物館にたずさわってきた金時徳展示課長である。韓国国立民俗博物館の学芸士であった一九九九年、ちょうどみんぱくが「朝鮮半島の文化」展示のリニューアルをしていたころ、外国人研究員として本館に一年間滞在していた経験もある。



——二〇二二年二月二六日に開館したとうかがいましたが、創設の経緯を教えてください。

二〇〇八年八月一日に李明博大統領が大韓民国の光復六三周年および建国六〇周年慶祝辞で「苦難と逆境のなかで発展した自慢すべき奇跡の歴史を記録し、後世に伝承し、国民の矜持の高揚および国民統合として国家の未来発展の原動力を確保するため『大韓民国歴史博物館』を建設しよう」と公表しました。そして、翌年の五月四日に企画課と建立課のふたつの課からなる、わたしを含めた二二名の大韓民国歴史博物館建立推進団が発足し、本格的な準備を進めました。

——景福宮の光化門の前という、ソウルの中心地にありますね。

以前は文化体育観光庁があった場所、隣にはアメリカ大使館があります。博物館の規模は敷地六四四五平方メートル、建築総面積二万七三四平方メートルで、地上八階の建物に常設展示室(三〇九〇平方メートル)とふたつの企画展示室、収蔵庫、セミナー室、カフェ、ショップ、屋上庭園などをもっています。

——常設の展示場は、一階からエスカレーターでのぼって三階に行き、それから五階までと、垂直型の展示は大阪の歴史博物館と似ていますね。

玄関ホールは一階と二階の吹き抜けになっており、一階にはふたつの企画展示室があります。ひとつは「大韓民国の再発見」と題し、重要な歴史的瞬間と政治・経済・社会・文化など多様な分野を、最先端ディスプレイ技術をとおして、見て、聞いて、感じる空間にしています。もうひとつの「わたしたちの歴史宝物倉庫」は、資料を直接触り(Hands-on)、発見し(Finds-on)、理解する(Minds-on)

という経験を基にして、子どもたちの視線から現代史を学習する場です。

三階の第一展示室の主題は「大韓民国の胎動」です。自主的近代国家の夢と挫折、大韓民国臨時政府と独立運動、一九四五年の八・二五光復(植民地支配からの解放)を展示しています。つまり、一九四八年の大韓民国の成立よりやや遡って、英語名で National Museum of Korean Contemporary History とあるように、日朝修好条規(江華条約)が結ばれた一八七六年以降の「現代史」を展示しています。そして、四階の第二展示室が「大韓民国の基礎確立」です。大韓民国政府樹立、六・二五戦争(朝鮮戦争)と戦後の復旧、戦後近代国家の土台の構築を展示しています。

五階の第三展示室は「大韓民国の成長と発展」です。経済開発と産業化、変貌する都市と農村、市民社会の成長と民主主義を展示しています。そして、同じく五階の第四展示室は「大韓民国の先進化世界への跳躍」という主題で、スポーツ、文化などをとおして世界に進出し、経済先進国に向かう姿を展示し、総合映像室では大韓民国の未来を映し出しています。

——資料はどのように収集したのですか？

展示資料の収集は、韓国国立民俗博物館での経験を生かして、二〇一〇年六月三日からキャンペーンをして二万余点以上の資料の寄贈を受け、九月一日から公開購入と競売購入で約三万余点の資料を確保しました。現在の二二〇点の展示品のうち外部からの借用品や複製品は、わずかに二〇〇余点にすぎません。——展示場をまわってみると、時代に色使いを変えたり、さまざまなIT技術が導入されていますね。インターネットデザインを借用して、暗い時代と希望に満ちた時代によって空間の色彩を変えたり、歴史をたんに事実中心に羅列せずに、ストーリーを創り出して観覧客が退屈しないように心がけました。また、技術的には、デジタルには長所が多いのですが、アナログ世代には不便ですし、展示内容が不足しているという批判を受けもあるので、デジタル技術を利用しアナログの感性を極大化させるデジログ(Di-Logue)技法を借用しました。

——現代史を展示するということは、むずかしいですね。

保守政権の時期に建立したので、公平性と客観性に欠けるという進歩陣営の批判の対象になりました。また開館してからは、「ドイツ歴史の家」が二年という充分な討議をかけて開館したことと比較し、四年間では拙速だったという批判もあります。しかし、これも互いの設立経緯を比較してみれば、批判のための批判だと多くの博物館関係者は話しています。また、現代史を対象にしているため、これまで収集の対象とならなかった工産品、今まさに生産された最先端の製品も重要な収集対象になります。その意味では、新しい博物館の姿をみせていけると思います。

朝倉敏夫

民博文化資源研究センター



金時徳さん



1階の「わたしたちの歴史宝物倉庫」展示



第一展示室



来館記念の電子芳名録



建物の全景